



反対の中のハーモニー

ロストエンドファンドの共同創設者のRia Dunn、とAlessandro Esteriを訪れた。

反対を結びつける、障害をなくし、決定を下し、一貫性を証明する。これらがわずか8年間で、デザイナーRia Dunnと彼女のパートナーAlessandro Esteriが彼らのブランドである“ロストエンドファンド”をファッション業界の新入りメンバーからインターナショナルアバント-ガードファッションで最も活躍するプレーヤーにした。そこにたどり着くため、彼らの社会的慣習に合ったデザインを避ける気力、覚えのよさ、そして鋭利な自分たちの能力に対する認識が鍵となっていた。それは簡単な道のりではなかったが、彼らはなんとか成し遂げた。そして今日、彼らは更にブランド発展へと次なるステップへまさに進もうとしている。もしあなたが、Ria DunnとAlessandro Esteriに訪れたいのならば、良いカーナビを常備しているか、現地のイタリア人に道を聞くために、きちんとしたイタリア語を話せるようになるべきだろう。



世紀

彼らは古いトスカナの農園家に2人の子供、たくさんの猫、金魚、複数の鶏、一匹の犬と住んでいる。家は牧草地と大きなキッチンガーデンに囲まれていて、丘の上に立っているため、家を囲むランドスケープの壮観な景色が見渡せる。

隠れ家:長所とインスピレーションのソース

Ria DunnとAlessandro Esteriにとって得に彼らが初めてロストエンドファンドを設立し、ストレスの高い時期にこの場所がどれだけ大切な役割を果たしたかはクリアである。これはイタリアで生まれ育ち、長い年月をパリとニューヨークに住んで過ごしたAlessandroよりもカナダ生まれのRiaにとってもっと真実である。バンクーバー出身のRiaは言った。「私がこの家を自分の家と感じるには、私が予想していたよりも時間がかかりました。」「最初は、ワオ!トスカナに住むのはなんていいの!ロマンチックな夢がやっと叶ったわ!なんて言っているうちに少しするとメンタリティー、習慣、マナーの違いという現実が重くのしかかってきたの。でも今は全て順調。私たちの美しい家は私をたくさん救ってくれたわ」
彼らは共にアレッツォー車で1時間程度離れた場所、もしあなたがイタリア人のように運転をしたら30分程度で働いている。郊外にある小さな工業地域の一角で元はボルシェの販売代理店があった建物にロストエンドファンドは本部をかかえている。内部も今ではスポーツカーの代わりに洋服ラックいっぱい製

作段階がばらばらな最新のコレクションがぎゅうぎゅうにかかっている。ドアはいつも豪快に開いていてオフィス内全体の空間が息をしている—全体に風通りがよく寛大な雰囲気にも包まれている。オフィスはたくさんのアイデアが生まれるのにまさに最適な空間だ。

Riaのオフィスは上階の終わりに位置している。彼女のデスクは型紙であふれている—デザイン製図と次のメンズエンドレディースコレクションへの布サンプルで覆われている。—彼らのアシスタントのオフィスでRiaのデスクから孤立されているAlessandroはホールの下階で働いている。ブランド、ビジョン、ビジネスモデルの発達と国際的な会社管理が彼の仕事だ。彼らのブランドは見た目はカッコ良く、独自のデザインとアンティークが取捨選択して作られている—ロストエンドファンドブランドの見た目と感覚はデザインの古さの中に何を保護すべきで何を新しいアイデアに結ぶべきかというコンビネーションから息を吹き込まれている。現在、青年男女24名がロストエンドファンドで働いており、ロストエンドファンドで働く事においてファッション業界での経験は必ずしも必要ではない。むしろ無い方が良い場合もある。「僕はいつもチームにボルトとねじを売るイメージをしてもらって聞きました。なぜなら何をやるか、売るかに関係なくどれだけビジネスに集中するかがとても大切だからなんだ。チームにクオリティー



をもとめるためにね」とAlessandroきっぱりと説明した。ファッション業界の話をする、RiaとAlessandroの態度はひとつの共感する要素もあり、反発する部分もあった。Riaは昔大きなブランドで働いていた。彼女はそのときの経験にとっても感謝している。大きな会社の仕事の仕組み、構造をより理解していくうちにいつの日か失望させられた。彼女にとってファッション業界はあらかじめ決められていてうわべだけの感覚がしたのだ。Alessandroも実は同じように感じていた。ロストエンドファンドに関わる前、Alessandroはフォトグラファーとフィルムプロデューサーをやっていた。ファッション業界の人とは時々関わる程度だった。だからこそ彼はよりファッション業界を外側からの感覚で見ることが出来た。「僕は素晴らしい人にも会ったけれど、でしゃばり屋とかせびり屋でただ最終的にはデザイナーのお金だけが目当ての人達にも会った。僕たちも実を言うところいったタイプの人たちを信じて最初はそれは結構なお金を失ったんだ。」最終的にAlessandroは彼自身とRia独自でロストエンドファンドと共にブランドの成功策にたどり着くしかないのだと気がついた。「僕のやり方でやるのか全くやらないのかだと僕は強く主張した」この方法でついてきたものも簡単ではなかった。彼らは共にAlessandro自身が用意した葉の茂った中庭で最高のワインと美味しいサラダ、トスカナ肉が座ったテーブルを前にしてリラックスした午後を過ごすのを楽しんだ。2人は暗い時期をかえながらもそれを乗り越えることが出来たため、今でこそ





辛い過去の時期を振り返り笑うことが出来るようになった。今も尚ロストエンドファンドは成長し続けている中、最初は目立たず少しずつ広まっていたがある段階で爆発的に、まるで燎原の火のごとくロストエンドファンドブランドが社会全体に一気に広まっていた。240以上のストアが各国中で彼らのコレクションを売っている—未だに支店が240ストア以上に増え続けている。銀行は投資を申し出してきた。—これらを兼ねて見てロストエンドファンドはひとつの大きな成功ストーリーであり多くの人が関わりたいと願っている。

ほんの最近、RiaとAlessandroは“ルーム”という名前の2番目のコレクションを一番目のラインに加えた。値段が一番目に比べて少し安い、コレクションピースには心そそられる魅力がある。それに加えて彼らは子供用コレクションや家と家具コレクション、彼ら独自のビールメーカーまで販売している。これらのアイデアの背景にはスタイルとはただのファッション以上だというメッセージが込められている。“創造”“安楽”“味”“人生”と大きく見出された全体論なロストエンドファンドの世界観は新しいウェブサイトで見られる。彼らの問題は世界観があまりにも成長してしまうことだった。

こうして、それを防ぐために、ロストエンドファンドを18のデザイン種類で止めるという決断がされた。明らかに、RiaとAlessandroは物事を大きな写真で考える。彼らに会った事がある人はわかるが、彼らの野心は山も動かしてしまうほど大きい。しかしRiaは言った、「プライベートとしても仕事としても最初はとても大変だったの。

難しい決断を二人でするときなんか口論は歯止めが利かなかったわ」二人の子供を連続に出産したばかりでやや哀愁的でデリケートになっていたRiaでも彼女のデザインに対する能力(仕事に対する気力)になると強い働くママだった。彼女に並んで、Alessandroも雄弁で決定力もあり何かを彼のやり方でやると決めたら他人の気持ちを気にせずやる性質を持ち合わせていた。両者、限りの無いエナジーで溢れた正反対のカップルの二人は幸運にも共に平常心を保つことから和解する能力と知恵を身につけることが出来た。

Riaが始める。「ロストエンドファンドは文化的なトスカナクラフトマンシップを徐々によみがえらせて展開させ近代の創造と混合させる事をミッションにやる事だと思ってるわ。」Alessandroも言った「ロストエンドファンドはブランドの独立、ブランド内でのフリーダムそして最後にビジネスという順番だ。」Riaが続けた「ロストエンドファンドは自立発展性」「ロストエンドファンドは利益性」とAlessandroは言った。「ロストエンドファンドはブランドとしてどれほど信用性を高められるのかだわ」Riaは言った「ロストエンドフ

アンドは成長性だ」Alessandroはかぶせてまた強く主張した。Alessandroは300人程度居るお金持ちなだけのファッションニスタスやファッションエートのために働きたくなかった。RiaはAlessandroに賛成だった。「私たちは自分たちの商品を通して実際に世界に変化を生み出したいの」彼らのサービスクオリティや顧客満足度に対する気持ちはとても熱かった。こんなことはめったに起こらないのだけれど、世界中に存在するお客様のうちもし一人でも僕たちの商品に問題や不満があったら、お客様が選んでくれた僕たちの支店は問題に対する説明と交換できる同じ商品をその人のために用意するのが当たり前なんだ。」Alessandroは言った。

ロストエンドファンドにはとてもロマンチックなストーリーが背景にあった。それはある日の深夜の話、Riaはモロッコ旅行に行く決意をAlessandroの2年間にも及んだ情熱的なアプローチで決めた。モロッコ南方に位置するさびれたホテルに着き、そこでやっと二人はカップルとして正式に結ばれた。Alessandroは道端からたびたびランダムに小物を拾って、小さな彫刻を作り、“Riaの落し物”とノートを付けて愛するRiaに贈った。これが2006年に起こり、2007年このストーリーを受け、二人で独自のブランドを立ち上げた。

ところで今はそんな感傷話にひたっている時間はなく、2016年、ロストエンドファンドは最近撮影が完成したブランドとRiaのデザインについて得にキャプチャーがおかれているフィルムを発売開始する。バックグラウンドミュージックは歌手ambient projectレーベルDehn SoraのTreha Sektoriから提供されており、William Lacalmontieが撮影を手掛けている。不穏な暗闇の周りを取り囲むようなサウンドに白と黒のイメージの映像は印象深いフィルムに仕上がった。そしてこのフィルムはRiaとAlessandroが普段過ごすトスカナ農園家が位置する田舎とは全く正反対の経験を生みだすものになった...または同じ？

次の朝、オフィスに向かう途中、Alessandroはロストエンドファンドを象徴する服を着た。それは白いシャツに黒い腰の低いショートパンツにサンダルだ。この服装で小さなバーに行き朝のカプチーノを飲む彼は田舎出身の格好をしたばかりのこのバーでひととき目立つ。しかしそれと同時に彼は完璧にこの世界へフィットしていた—彼は世界と異なるが彼の存在は真実だった。彼の周りに居る人達と同じように—「私はロストエンドファンドを何か本当のものにしたかったの」とRiaDunnはフィルムの中で語った。どうやら彼女は彼女の言葉に叶った仕事をたくさんしてみたいだった。

